

新宮ダム

新宮ダムは、吉野川総合開発計画の一環として愛媛県新宮村（現四国中央市）の銅山川に水資源開発公団によって建設された多目的ダムです。洪水調節を行うとともに、早明浦ダム、富郷ダム、柳瀬ダムと相まって、かんがい用水、工業用水の供給、発電を行うことを目的としています。洪水調節はダム地点の計画高水流量 1,600 m³/s のうち 400 m³/s の調節を行い、かんがい用水は四国中央市の水田・果樹園等に対してかんがい期に 0.142 m³/s、非かんがい期に 0.0025 m³/s を供給し、工業用水は新宮ダムより 3.28 m³/s を四国中央市に供給し、発電は新宮ダムからの分水を利用して愛媛県が銅山川第3発電所で最大出力 11,700kW の発電を行うというものです。

もともと愛媛県では新宮ダムの原形について利水単独ダム計画を構想していましたが、昭和 36 年 9 月に柳瀬ダムの洪水調節量を上回る出水があったため、銅山川の治水計画の再検討が行われ、昭和 45 年 7 月に治水、農業用水、工業用水、発電の多目的ダムとして新宮ダムが計画されました。この計画では、銅山川の水だけでなく、支川馬立川からも取水して新宮ダム貯水池に導水することになっていたため、ダム直下流の銅山川及び馬立川下流の流水枯渇などを懸念してダム反対の運動が起こりましたが、馬立川取水堰地点で 0.285 m³/s（馬立川の流量が 0.285 m³/s 以下の時には自流量）の維持用水を河川環境保全のために放流することなど、下流環境対策を講ずることで事態の收拾が図られました。

新宮村では、新宮ダムに関する広範な意見を集約して、昭和 46 年 7 月に「新宮ダム建設に関する要求書」を起業者に提出しました。その内容は 42 項目にわたりますが、大別すると水没補償、下流域の環境保全対策、村の振興対策の推進の 3 つでした。このうち村の振興対策の中には、県道川之江大豊線の堀切トンネルの建設が組み込まれていました。堀切トンネルは、新宮ダムとは別に、村の重要案件として以前から県に陳情してきたものでしたが、建設の見込みは厳しい状況でした。しかし、ダム建設による村の損失は堀切トンネルの建設で償われるべきとの主張に理解が得られ、その他村の大方の要求が実現される見通しとなったことなどから、昭和 47 年 11 月に公共補償交渉が妥結し、新宮ダム建設工事が開始されました。

新宮ダム建設工事は昭和 50 年 10 月に竣工、その後地すべり対策工事が行われ、昭和 52 年 3 月に新宮ダム建設事業が完了しました。新宮ダムの建設に伴い、水没戸数は新宮村で 65 戸、伊予三島市で 22 戸にのぼり、そのほか新宮村では古野（この）小学校、中山神社などが水没しました。移設された中山神社の前に古野小学校跡地の碑が建立されています。＜参考文献：吉野川総合開発史編集委員会編「吉野川総合開発史」1979 年、水資源開発機構池田総合管理所・新宮ダム管理所「新宮ダム（パンフレット）」、新宮村誌編纂委員会編「新宮村誌 歴史行政編」1998 年など＞

